

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成24年度第2回）議事要旨

1. 日 時 平成24年10月23日（火）15:00～16:07
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長
村井、新名、高比良、畚野、松本、片岡、北出の各学内委員
井上、小出、佐々木、志村、宮瀧、CASSIM、矢嶋の各学外委員
欠席者 石井委員
出席監事 二宮監事
陪席者 堀江教育研究支援部長
奥田、竹下、桐山、森川、林田、成相、末廣の各課長
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成24年度第1回）議事要旨（案）
資料2 平成24年人事院勧告による一般職の職員の給与に関する法律（国家公務員給与法）改正への対応について（案）
資料3 国家公務員退職手当法改正への対応について（案）
資料4-1 山中伸弥本学栄誉教授「2012年ノーベル生理学・医学賞」の受賞について
資料4-2 本学の主な動きについて（平成24年6月21日（木）～平成24年10月22日（月））
資料5-1 国立大学法人評価委員会における平成23年度業務実績評価結果について【概要】
資料5-2 平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について
資料5-3 平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）の意見申し立てについて
資料6 課題創出連携研究事業
資料7 「平成25年度予算の概算要求組替え基準について」のポイント
資料8 平成23事業年度財務諸表の承認について（通知）
資料9 労働契約法の一部を改正する法律（改正労働契約法）について
資料10 平成24年度外部資金の受入れについて
資料11 「ミッションの再定義」について
参考資料 奈良先端大の概要と特色

5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成24年度第1回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

（審議事項）

- （1）平成24年人事院勧告による一般職の職員の給与に関する法律（国家公務員給与法）改正への対応について

高比良委員から、資料2に基づき、平成24年人事院勧告による一般職の職員の給与に関する法律（国家公務員給与法）改正への対応について説明が行われ、審議の結果、対応方針について原案どおり承認された。

また、一般職の給与に関する法律の改正に関する規約の改正については、国会における審議承認後、学内の手続きを経て、持ち回りによる審議を行うことが確認された。

(2) 国家公務員退職手当法改正への対応について

高比良委員から、資料3に基づき、国家公務員退職手当法改正への対応について説明が行われ、審議の結果、対応方針について原案どおり承認された。

また、国家公務員退職手当法の改正に関する規約の改正については、国会における審議承認後、学内の手続きを経て、持ち回りによる審議を行うことが確認された。

(主な意見は、次のとおり)

- ・金銭的なインセンティブのほか、研究環境の改善など、構成員が奈良先端大に所属して良かったと思えるような工夫が必要ではないだろうか。

(報告事項)

(1) 本学の子な動きについて (平成24年6月21日～平成24年10月22日)

議長から、資料4-1～2に基づき、山中伸弥本学栄誉教授のノーベル生理学・医学賞の受賞が決定したこと等、平成24年6月21日から平成24年10月22日に行われた本学の活動状況等について報告が行われた。

(2) 平成23年度に係る業務の実績に関する評価の結果 (原案) について

村井委員から、資料5-1～3に基づき、平成23年度に係る業務の実績に関する評価の結果 (原案) 及び意見申し立て内容について報告が行われた。

(3) 課題創出連携研究事業について

村井委員から、資料6に基づき、課題創出連携研究事業について報告が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・本事業は、従来の産学連携とは異なり、課題の発掘段階から企業の研究者と大学の研究者が共同で研究を行う点で極めて新しい試みである。

(4) 平成25年度概算要求事項の状況等について

高比良委員から、資料7に基づき、平成25年度概算要求事項の状況等について報告が行われた。

(5) 平成23事業年度財務諸表の承認について

高比良委員から、資料8に基づき、平成23事業年度財務諸表の承認について報告が行われた。

(6) 国立大学法人運営費交付金 (一般会計計上分) の臨時的措置に伴う執行について

高比良委員から、国立大学法人運営費交付金 (一般会計計上分) の臨時的措置に伴う執行について報告が行われた。

(7) 労働契約法の一部を改正する法律 (改正労働契約法) について

高比良委員から、資料9に基づき、労働契約法の一部を改正する法律 (改正労働契約法) に

ついて報告が行われた。

(8) 平成24年度外部資金の受入れについて

新名委員から、資料10に基づき、平成24年度外部資金の受入れについて報告が行われた。

(その他)

(1) 国立大学のミッションの再定義について

議長から、資料11に基づき、国立大学のミッションの再定義に関する動向について報告が行われた。

(情報交換・意見交換)

山中伸弥本学栄誉教授のノーベル生理学・医学賞受賞を機として、本学における教育研究、人材育成及び社会貢献という観点から、本学のミッションにどう生かしていくべきかについて、意見交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・山中先生の発見が生物分野と工学分野の結びつきで生み出されたように、今後はいろいろな分野の研究者が集まって新しい成果を生み出す時代に入ったため、そのような小さなプロジェクトを育てていくことが重要である。
- ・山中先生が成功できたファクターの一つが、奈良先端大の開学間もない自由な雰囲気の中で研究をできたことである。引き続き、チャレンジできる気風を残していくことが重要である。
- ・少子高齢化、財政基盤の縮小等国立大学にとってこれから益々厳しい世の中になる。例えば、山中先生を中核として国内外の企業のスポンサーシップを得て、インキュベーションセンターを作り、国際的に資金を集めることも考えられる。
- ・研究について、効率化や成果を求めるのではなく、研究者が自由に研究できる環境が必要である。また、芽が出た研究分野に対して重点的に投資を行い、当該分野でリーダーとなるシステムが必要ではないだろうか。
- ・分野融合を推進するため、若手研究者や大学院生の自己紹介の場として、いわば「いけす」のようなしかけを設けて、異分野のオフィスメイトやルームメイト、あるいは異なる文化の外国人研究者と触れ合い、自由な議論・意見交換をとおして、新たな共同研究の芽を探し、意気投合できれば、実行に移すことができる「しかけ」があるとよい。
- ・奈良先端大が山中先生とつながりを保ち続けてバーチャルな研究ネットワークとして、研究者の交流を広げていくことも重要である。
- ・欧米の研究者の個性や自由度に比べ、日本の研究者は一律になりすぎている。パイ字型の研究者像が求められており、自由な発想で自分の領域を広げていくことが必要である。

以上